

会議録

会議の名称	平成22年度第1回 西東京市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	平成22年5月27日（木曜日） 14時00分から16時00分まで
開催場所	エコプラザ西東京 プラザ棟1 講座室1・2
出席者	委員：山谷会長、金成副会長、小川委員、紺野委員、石井委員、大河内委員、笠原委員、飯田委員、江口委員、高橋委員、池田委員、片桐委員、平山委員 事務局：金谷ごみ減量推進課長、河合ごみ減量係長、高橋清掃係長、三村統括技能長、岡本主査、小暮主任、加藤主任
議題	(1) 平成21年度のごみ収集状況について (2) 平成22年度の取組みについて (3) その他
会議資料の名称	資料1 平成21年度のごみ収集状況 資料2 平成22年度の取組み
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
○山谷会長： ただ今から平成22年度第1回西東京市廃棄物減量等推進審議会を開催します。事務局の説明をお願いします。 ○事務局： 4月に組織改正があり、生活環境部からみどり環境部に組織替えがありました。また、部長が金谷部長に替わり、事務局も一人入れ替わり岡本となりました。 部長および岡本挨拶 ・資料1「平成21年度のごみ収集状況」の概要説明 ごみの全体量は若干減っており、20年度から21年度ヘリバウンドはしていません。家庭ごみは不燃ごみが15パーセント程度増えています。また、資源物は22.7パーセント程度増えています。これは確定値ではなく、速報値になります。 ○池田委員： 不燃物が増えている理由はどうしてだと考えますか。 ○事務局： 容器包装がDランクになったため、回収を強化したので、7月以降プラスチック容器が不燃物への混入につながっているのではないかと考えています。そのため、プラスチック容器が不燃物に混入をしないよう、更なる資源化を図っていく必要があります。	

○池田委員：

平成21年度の収集実績がリバウンドしないで減っているのは評価に値します。

○江口委員：

東京新聞に西東京市が1番と掲載してあったが本当ですか。

○事務局：

国に報告した際、集団回収の量が入っていませんでした。実際は5位になると思われます。

○山谷会長：

西東京市の場合、中小の企業系のごみを収集していない。家庭ごみでは多摩地区では1位です。

○池田委員：

（委員からの資料配布）有料化している市の資料説明

○山谷会長：

23区は中間処理以降の資源化は入れていない。多摩は中間処理後の資源化・エコセメント化の数値も取り入れた数値ですので、一概には比較が出来ません。

○池田委員：

有料化の効果を調査した資料ですが、料金が高い方がごみが少なくなっており、効果が大きいと思われます。

○江口委員：

23区ではごみ有料化をしていますか。

○池田委員：

まだです。中野区が今やろうとして審議会からの答申が出ています。
新宿区は住民の7割が反対で進んでいません。

○山谷会長：

平成22年度の取組みについて説明をお願いします。

○事務局：

資料2「平成22年度の取組み」について概要説明

手数料を可燃・不燃ごみは同額でプラスチックは半額ということで答申いただきましたが、議員提出議案で可燃・不燃ごみは4分の3、プラスチックは4分の1となりました。歳入の減が心配されます。生ごみ処理機のレンタルを行い、更なる普及をしていきます。ダンボールコンポストの普及については、市の職員を講師として市民向けに年間5回位行います。また、夏休みに親子で参加できる講座を考えています。

産業振興課で行っている体験農園を利用している方に、堆肥を作る体験をしてもらうことを考えています。

剪定枝・草等を資源化するモデル事業を行います。

民間業者を使い堆肥化することにより、柳泉園に搬入するごみの量を少なくします。

レジ袋の削減については、市民と事業者を含めた推進組織を設置して、計画を策定する取り組みをしたい。

事業系廃棄物対策に向けて、事業主とごみの減量方法等を話し合う場を設けて議論していきます。

充電池のリサイクルを積極的にPRし、回収します。

特にレアメタル等を積極的に資源化につなげ、金属類もさらに選別することにより、できるだけ高く売り、市の財源を確保します。

業者の中にはペットボトル・トレイ等を回収している方々がいるのでPRをして家庭ごみを減らすよう努力をします。

市民フォーラムを開催してごみ減量の意義を市民の方々に周知します。

廃棄物減量等推進員が60数名いるので、推進員と協働した活動を行います。

ペットボトルキャップ・茶碗リサイクルの資源化のため、りさいくる市に参加しているごみ資源化市民会議を支援していきます。

路上喫煙・ポイ捨てについては、昨年まで環境保全課で行っていた事業ですが、本年度からごみ減量推進課の所管となりました。まちの美化と安全を推進する事業としてたばこの吸殻を拾い集め、ポイ捨てを防止するためのティッシュ配りを朝・夕に行います。

環境美化事業として老人クラブ・シルバー人材センターと協力してごみゼロデーを5月に実施し、市内24箇所の臨時集積所を設けてごみを回収します。

情報提供の強化のためECO羅針盤・ホームページ・市報の充実を図り、施設見学や出前講座を積極的に行います。

収集作業の安全徹底として管理表を作成し、毎日確認を行うことにより事故を防止します。

昨年度から指定収集袋に事業者の広告を募集して掲載していますが、本年度も財源確保と地域経済の活性化を図ります。さらに本年度は収集日程表にも広告の掲載を行っていきます。

時代の流れによる粗大ごみの対象品目の見直しを行います。

○池田委員：

価格が変わったことについて審議会はどうすることもできないのですか。

○事務局：

市長に答申することが審議会の役割です。

○池田委員：

議会の意見で変えられてしまうのであれば、審議会の意思が伝わらないのではないのでしょうか。有料化が良いのか悪いのか資料を出せばよかったのかもしれない。ごみ収集袋を安くすることで一般財源からの持ち出しがあることを市民が理解していないのではないのでしょうか。

○事務局：

審議会からの説明はしましたが、議員からの提案で市民の負担額を下げるということ

になりました。国民健康保険の答申の場合、市の予算をかんがみてそのまま出すときと市の財源不足で負担額を下げて提案するときもあります。

○池田委員：

私どもはごみも減らし財源も確保しようと提案しているのに、財源の確保ができないのに使用料を下げるのはいかがなものでしょうか。

○笠原委員：

予想以上に財源の確保が出来ず、補正予算を組まなければならない事態になった場合は、審議会で手数料を値上げする答申をしてはいかがでしょうか。

○山谷会長：

この審議会においてプラスチックが半額ということで提案しましたが、さらに半額となったことで8,500万円ほど市の収入が減るとのことでした。可燃ごみ・不燃ごみが1リットル2円から1.5円に減ることで現年度ベースでどのくらい収入が減ることになりますか。

○事務局：

試算中です。

○池田委員：

2億円と私の資料では書いてあります。4億7千万円の内2億7千万円は入ってきて、2億円くらいは減るのではないかと思います。

○山谷会長：

リバウンドが出ないとすれば、どの位減るかわかるのではないのでしょうか。

○事務局：

2億円まではいかないと考えていますが、販売状況などもあるため、これといった確かな金額は言えない状況です。

○山谷会長：

他市の事例でいうと、安くなったから大きな袋を使おうとするリバウンドが起こります。

○池田委員：

議会はそんなことは起こらないというが、気が緩んでリバウンドが起きるのが困ります。有料化のメリットを打ち出して、無料の市民が割りを食っていることをわかるように行政も動いて欲しいと思います。方法論よりも市民の気持ち一つであると思います。どんなに減っても卵一つ（10グラム）なんですね。意識がどちらを向くかという努力の方がもっと大きいので、どうしてするかを議題にしていきたいと思います。

○事務局：

今後については、これだけ料金の変更があったことにより市民にも説明し、市側もき

ちんと受け止めていかなければならないですし、議員の方々も修正をかけたのですから、今後協力していただきながら事務等を進めていきます。

足りない部分については補正予算で対応をしていきます。

○池田委員：

理由もなく変更されるのはおかしいのではないですか。

○山谷会長：

議案は市の提案として提出しているので、市民の意向が相当反映されていると考えて間違いはないと思われます。その後、どうすれば良いのかを考えるべきです。1リッター1.5円ということであれば十分減量できる水準であると考えられます。多摩市も1リッター1.5円で、西東京市と競り合う位にリデュースは進んでいます。値下げによるリバウンドを防げないわけではありません。千葉県八千代市なども維持しています。

○江口委員：

個人的に言いますと、いままでトレイとかはスーパーなどに持って行っていたものが、プラスチック袋が値下げされたことにより、プラスチック袋に入れる人が増えるかもしれません。

○山谷会長：

良い方向に考えると、昨今不燃ごみが多い傾向にあるが、プラスチック袋が値下げされることでインセンティブが働き、不燃ごみ袋に入れていたものを、プラスチック袋に分別するようになり、負担軽減につながると好ましい。

○池田委員：

プラスチック袋が値下げされたのは仕方がないが、可燃袋も値下げされたのは残念です。今後のごみ減量に支障をきたすのではないのでしょうか。

○山谷会長：

ごみ指定袋で40リッターで80円は全国的にもかなり高い水準です。

○池田委員：

公共料金に比べれば、個人のごみをこの料金で収集してもらうのはありがたい。

○江口委員：

主婦の立場からすると、大きいごみ袋が使いやすい。ごみ袋が安くなることで、大きい袋が使えるのは助かるが、そのことが原因でごみが増えるのは困るので、ごみ袋の使い方などを市報等でお知らせしたほうが良いと思います。

○事務局：

現在、ごみ減量推進事業の一環として、市独自で組成分析を行っています。

集合住宅の家族タイプ・単身タイプ・戸建を対象に約一年間位ごみの種類や分別等の統計をとり、市民のみなさんによりいっそう減量ができる方法などを啓発していきます。また、今検討しているのが生ごみの堆肥化で、生ごみ処理機や、ダンボールコンポ

ストでできた堆肥を捨てては意味がないので、ネットワークを作り無料で収集し、農家の畑の一部を借りて市民のみなさんと協働で農園作りを行うことなども考えています。

○笠原委員：

ごみ減量広報車等で、ごみの出し方、分別等について啓発したらどうでしょうか。

○事務局：

試験的に田無リヴィンに一箇所マナーアップの掲示板を掲げたところ、だいぶマナーを守ってもらえています。いままでは、家庭ごみとか粗大ごみが捨てられていた。今後は田無リヴィンで成果が確認できたら、コンビニ・店舗・事業所等のごみで悩んでいるところにマナーアップの掲示をして、協働でごみ減量に取り組んでいく考えです。

○池田委員：

集団回収を西東京市はもっと取り入れたほうが良いのでは。中野区などは、全部集団回収しています。集団回収のメリットとしては、資源物の集まりが良いこと。デメリットは、古紙の値が下落し、逆ざやになった時に業者が困ります。安定した事業にするには、有料化にして基金を創り、古紙の値が下落した時は不足分を業者に支払う方法が良いと思います。西東京市も集団回収に力を入れたほうが良いと思います。

○金成委員：

集団回収はコストがかかると言われていますが、如何ですか。

○事務局：

西東京市に限っては、行政回収と集団回収では、集団回収の方が少し高いです。自治体によって支払う助成金によっても違います。西東京市のように資源回収業者が直接資源回収を行っているところは、低コストで行政回収をしています。なぜ、集団回収を進めるかという、非常に品質が良いからです。行政回収は集団回収などで集められない雑紙などが非常に多く、それだけでは単独で売れないものが入っています。しかし両方やることで処理がスムーズに行えるので、集団回収は必要不可欠です。

○池田委員：

集団回収することによって、地域のコミュニティが生まれ、ごみに対する意識が高まり、いい加減な捨て方が減るので好ましいと思います。

○事務局：

そのとおりです。集団回収は、行政回収より安く処理するためのものではありません。しかし、他の全部集団回収自治体と比べて低コストで行えているのは、西東京市はごみ業者ではなく、資源業者が行っているからだと思います。

○金成委員：

剪定枝のモデル事業は何箇所まで何世帯ぐらいですか。

○事務局：

特定地域は設定していません。都営住宅や大型住宅などから大量に排出があった場

合、あるいは収集業者や自治会等より連絡がありましたら市で収集に伺い、収集したものを柳泉園で計量し、尾林造園に持って行きます。個人宅でも連絡をもらえれば収集に伺います。

○事務局：

次回の会議は必要に応じて開催する予定です。その際は前もって連絡します。

○山谷会長：

これにて会議を終了します。お疲れ様でした。